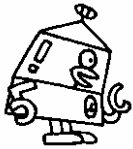


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

ふた子の赤ちゃんは、どんなふうにおなかに入っているの



2つのタイプがあって、下の図 ㉑、図 ㉒ のような形で、お母さんのおなかの中で育っていくんだよ。

同じ卵から生まれた一卵性のふた子は、おたがいによくにている

人間の赤ちゃんは、お母さんの体内で、卵子とお父さんの精子が結びついた（受精）ときできます。受精した卵子が子宮にくっつくと、そこにたいばんができます。たいばんは、へそのおとつながっていて、赤ちゃんに必要な栄養や酸素をわたしたり、赤ちゃんの体内にできないものを受け取ったりするはたらきをします。

受精した卵子がぐうぜん2つに割れ、それぞれ赤ちゃんに育つと、ふた子になります。もとは同じ卵子だったので、おたがいによくにている、一卵性のふた子とよべれます。必ず同性になり、男と女のふた子にはなりません。この場合は、図 ㉑ のように、一つのたいばんで、赤ちゃんのへそのおとつながっています。

同時に2つの卵子が育つと、二卵性のふた子という

お母さんの体内で、同時に、2つの卵子がそれぞれ受精して赤ちゃんに育つことが、たまにあります。これを、二卵性のふた子とよんでいます。

この場合は、図 ㉒ のように、それぞれの受精卵がくっついたところにたいばんができ、2つのたいばんから、別々にへそのおとつながって育っていきます。

二卵性ふた子は、別々な受精卵から生まれてくるので、兄弟や姉妹と同じ関係になり、同性のふた子以外に、男と女のふた子が生まれることもあります。一卵性ふた子とくらべると、あまりにいていない場合も多いです。

